

4. 水族館記録 2003年

1. 研究・教育

- 1月24日 和田 洋助手が、研究用のユウレイボヤの蓄養を第2水槽棟予備水槽(R-9)で開始した。その後6月30日からは、第3水槽棟で単独循環予備水槽(水量100ℓ)を使用し、17℃に冷却して蓄養した。
- 3月20日 岩部直之助手(京都大学理学研究科)が、予備水槽から研究用のカイメン類を採集した。
- 3月22日 公開臨海実習生(19名)および京都大学理学部生物系臨海実習2部学生(10名)の見学を指導した。
- 4月12日 京都大学理学研究科生物学専攻学生(M1、19名)の見学を指導した。
- 4月30日 リンボウガイに対する炭酸ガスの影響を調べる実験(白山義久教授および技官3名)を終了した。301号水槽で2年間、実験しながら展示した。
- 5月28日-6月 2日 ファン・タイン院生(奈良女子大学)が、第3水槽棟屋上培養室でクモガニ類に対するクサフグの影響実験を行った。
- 6月 1日 大阪教育大学教員養成課程実習生(15名)の夜間見学を指導した。
- 6月11日 白山義久教授・興田喜久男技官・太田 満技官・山本泰司技官が、ツマジロナガウニとムラサキウニに対する炭酸ガスの影響を調べる実験を301号水槽で展示しながら開始した。しかし、収容密度が高すぎて不備が生じたため、7月23日よりムラサキウニのみで改めて開始した。
- 6月15日 放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生(20名、担当教員：白山義久教授)の見学を指導した。
- 6月16日 奈良教育大学教育学部実習生(14名)の見学を指導した。
- 6月21日 白浜町立富田小学校3・4年生(33名)の社会見学を指導した。
- 7月10日 森 義昭助教授・波部 斉助手(京都大学学術情報メディアセンター)が、101号水槽で全方位カメラの水中実験を行った。
- 7月17日 大阪市立大学理学部臨海実習生(22名)の見学を指導した。
- 7月25日 滋賀県立膳所高等学校臨海実習生(生徒19名・教諭4名)の見学を指導した。
- 7月31日 大阪大学理学部臨海実習生(18名)の見学を指導した。
- 8月10日 京都大学理学部生物系臨海実習1部学生(9名)の見学を指導した。
- 8月13日 近畿大学水産生物学臨海実習生(41名)の見学を指導した。
- 8月20日 兵庫県立尼崎小田高等学校実習生(7名)の見学を指導した。
- 8月27日 京都教育大学教育学部臨海実習生(13名)の見学を指導した。
- 9月11日 公開臨海実習生(5名)および京都大学理学部生物系臨海実習1部学生(15名)の見学を指導した。
- 11月13日～翌春 遊佐陽一助教授(奈良女子大学)と大和茂之助手の依頼により、イセエビ刺網にかかるソメンヤドカリの収集を行った。
- 11月19日 和歌山県立田辺商業高等学校生徒(5名)の「職場訪問」で見学を指導した。
- 11月25日 シニア自然大学高等科(18名)の見学を指導した。

2. 普及(報道関係は放送および掲載分のみ)

- 3月 3日 (社)大阪自然環境保全協会・大阪自然文化塾研修会一行(31名)をバックヤードを含めて案内した。
- 7月 4日 白浜町立富田小学校一行(生徒33名・教諭3名)をバックヤードを含めて案内した。

- 7月 4日 自然観察教室一行(白浜町立児童館主催、56名)を案内した。
- 8月 4日 紀伊民報(夕刊新聞)が、田辺湾のイシサンゴの産卵について取材した(8月7日付)。
- 8月21日 紀伊民報がオニヒトデを取材した。
- 9月20日 歩む会(13名)一行を案内した。
- 12月 6日 「水辺の環境教室」(白浜町生活環境課主催)で、参加生徒(白浜町内の小学生38名)をバックヤードを含めて案内した(紀伊民報、12月9日付)。

3. 機械・設備

- 1月 8日-17日 No.1・No.3揚水ポンプを分解・整備した。
- 1月20日 軽トラック(三菱)が納車された。
- 1月27日・28日 揚水ポンプの運転状況と海水使用量調査を行い、大潮低潮時における揚水ポンプ停止タイマーの設定時間や海水使用量の調整のための参考とした。
- 2月25日 軽トラック用のパイプ車庫キットを購入し、第一水槽棟西側に設置した。
- 2月26日 濾過槽立ち込み洗浄用のビニールホース(径50mm)を、第1・第2・第4水槽棟地下室に2本ずつ(長さ9-18m)設置した。
- 3月 8日 第2水槽棟ブロワのタイミングギヤを業者が取り換えた。
- 3月17日 券売機2基を更新した。
- 4月 7日 高架タンク内の水量検知用センサーを修理・整備した。
- 4月18日 ボイラー(第2水槽棟機械室)と保温チラー(第4水槽棟機械室)の運転を停止し、各循環系統の加温を打ち切った(水温上昇に伴う冬運転の停止)。
- 5月 7日-27日 冷温水ポンプ(第4水槽棟機械室)を分解・整備し、ベアリングなど消耗部品を取り換えた。
- 7月14日 第3揚水ポンプの異音解消のため、業者に出して台座を研磨した(22日に据付・調整を行った)。
- 7月14日-17日 各循環系統の重力式濾過槽(第1・2・4水槽棟地下室に計15槽、130㎡)を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
- 7月27日-9月22日 冷却チラー(第4水槽棟機械室)を夜間に運転し、第3・4水槽棟各循環系統の水温を26-28℃に維持した。
- 7月31日 第2水槽棟各循環系統熱交換器の三方弁モーターの配線換えを行い、夏季弱冷時に正確な温度設定ができるようにした。
- 8月 5日-9月22日 チリングユニット(第1水槽棟機械室)の冷却運転を行い、101号水槽および第2水槽棟各循環系統の水温を26-28℃に維持した。なお、節電対策として、第4水槽棟の冷却チラーと第1水槽棟のチリングユニットの運転を夜間(閉館後～開館前)にのみ行った結果、電気料金が前年と比較して約70万円削減できた。
- 8月 6日 第4水槽棟チラーおよび第3・4水槽棟観覧通路のエアコン室外機の冷却効率を高めるため水道水配管を行い、タイマーを設定した。凝縮器に淡水を適当な時間間隔を置いて散水し、気化熱を利用して冷却するものである。
- 9月 2日 第1水槽棟機械室の冷却水ポンプを分解し、ベアリングとグランドパッキンを取り換えた。
- 11月14日 ボイラーを分解し、掃除・整備した。
- 11月25日-12月 3日 各循環系統の重力式濾過槽(第1・2・4水槽棟地下室に計15槽、130㎡)を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
- 11月26日 ボイラーを運転し、第2水槽棟各循環系統および101号水槽を20-22℃に維持した(翌春まで)。

- 12月 2日 受電設備精密点検のため停電とし、自家発電装置を運転した(7:30-9:30)。
 12月 3日 保温チラーを運転し、第3・4水槽棟各循環系統を20-22℃に維持した(翌春まで)。
 12月25日 ボイラーより燃料漏れがあり、分解・整備した(一部、業者に依頼)。

4. 収集・飼育・展示

- 1月14日 ミカヅキツバメウオ1尾(全長120.1mm・体長79.5mm・湿重35.1g)を玉置光生氏(白浜町)より購入し、303号水槽(「白浜沿岸の珍しい動物」)に展示したが、翌日死亡し液浸標本にした。
- 1月15日 202号水槽のクラゲ用吊り水槽で展示していたタコクラゲ(前年6月と7月に袋湾で8個体採集)が2個体だけになり、さらに傘径も3cmほどに小さくなって衰弱してきたため展示を打ち切り、クラゲを予備水槽へ移した。
- 1月20日 206号水槽(「軟体動物 マキガイ綱」)の展示を再開した。前年12月17日に観覧通路側への漏水以来、展示を中断してシリコンシーラントの打ち直し作業を行っていた。
- 1月22日 210号水槽のガラス接着シリコンシーラントを打ち直すため、展示を中断し底砂を取り出して淡水張りとした。数日後、淡水を抜き、水槽を乾燥させてから、シリコンシーラント露出部に保護用塩ビ板を貼り付け、31日に展示を再開した。211号水槽でも、2月10-19日に同様の作業を行った。
- 1月28日 サメハダテナガダコ1個体(208号水槽)が死亡したため、予備水槽で飼育していた同種1個体と交代した。その後、この個体は2月27日に死亡した。両個体共、前年11月14日に岡本昭生氏(白浜漁協富田浦支所)より購入したものである。
- 2月 4日 シロボヤ30個体(約1mの2本のロープに付着)を白浜町寒サ浦浮き棧橋より採集し、220号水槽に展示した。
- 2月13日 タカアシガニ雌1個体(抱卵中)を、よし善商店(鮮魚商)より購入した。さらに3月5日に雄1個体、3月20日にも雄1個体を購入した。いずれも南部町堺漁港に水揚げされたもの。
- 2月23日 ヨウジウオの一種(全長約10cm)の提供を浦 信吾氏(白浜町)より受け、402号水槽へ収容した。瀬戸港内の表層を泳いでいたところを手づかみしたとのこと。
- 3月 5日 ヒラマサ(全長約110cm、101号水槽)が死亡し、本種の飼育展示個体がいなくなった。田辺湾内の養殖業者は本種およびブリ・カンパチの養殖を打ち切っているため、今後、漁師が釣獲したものを購入する以外には、これら3種の入手が困難となった。
- 3月10日 304号水槽(「シャコ類」)で線虫の一種が自然繁殖し、シャコ類への給餌後、索餌のためか多数が水槽壁面に沿って這い出してくるのが目立つようになった。
- 3月14日 アカクラゲ2個体を江津良港内より採集し、202号水槽のクラゲ用吊り水槽へ展示した。さらに3月19日にも2個体を採集して追加した。
- 3月20日 ヤツデスナヒトデ1個体(幅長約15cm)を北浜水深2mより採集し、215号水槽へ展示した。
- 3月27日 クエ(全長79cm、413号水槽)が底にひっくり返っていたため、予備水槽(1㎡)に移した。3月24日に姿勢が不安定であることが確認されていた。腹腔内にガスが溜まっている様子である。4月3日以降、仰向けの状態のままアジ切身を摂餌している。
- 3月31日 長期飼育していたハナオコゼ(雌・全長15.4cm・体長10.9cm・湿重83g、305号水槽)が死亡した。前年6月28日に岡本昭生氏から購入したものである。この間、

- 数度、無精卵嚢を産んだ。
- 4月 1日 クラゲ用吊り水槽(202号水槽)で、衰弱したアカクラゲ1個体に代えてミズクラゲ4個体(田辺湾内寒サ浦で採集)を展示した。
- 4月 4日 長期飼育のサラサハゼ(全長14.8cm・体長11.2cm・湿重36g、403号水槽)が死亡した。1998年11月17日、島島で潜水採集したものである。当時の全長約8cm。
- 4月13日 スジハナビラウオ2尾(全長約6cm)の提供を、正木俊治氏(白浜町)より受けた。白浜沖30マイルでビニール袋に寄り添っていたところを手網で採集。
- 4月21日-6月10日 209号水槽からの漏水を止めるため展示を中断し、ガラス接着シリコンシーラントの打ち直し作業を行った。漏水場所が特定できず数度にわたって失敗したため、補修が完了するまで時間がかかってしまった。
- 4月23日 304号水槽(シャコ類)の泥底の上に、5部屋に分かれた塩化ビニール製水槽(213号水槽でカニ用アパートとして使用していた吊り水槽を転用)を置き、シャコ・フトユビシャコ・ハナシャコ・モンハナシャコの4種各1個体を収容した。
- 4月28日 長期飼育のツノダシ(全長16.6cm・体長12.9cm・湿重160g、403号水槽)が、死亡した。1998年11月6日、湯川勝之氏(白浜町)より購入したもので、当時の全長約14cm。
- 5月 3日 401号水槽(「干潟」・テラリウム)を保温していた温風器とビニール製上蓋を撤去した。
- 5月20日 養殖用ペレット餌料(大きさに別3種類と植物性ペレット1種類)の給餌を、従来の餌料(オキアミ・イサザアミ・アジ・塩ワカメ)を補う形で開始した。餌料費のコストダウンと簡便性・衛生性を志向したものである。
- 5月21日 ナメクジウオ1個体(全長約4cm)の提供を、真鍋 馨氏(白浜町)より受けた。江津良沖(田辺湾)水深15mでドレッジにかかったもの。
- 6月 3日-18日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類に認められたため、硫酸銅280gを4回に及んで投薬した。この間、406号水槽は、硫酸銅の影響を受ける軟骨魚類がいるために、循環系統から切り離し開放式とした。
- 6月 3日 209号水槽の石組みを、カメノテヤフジツボ付きの石が置きやすいように改良した。
- 6月14日-19日 402号水槽(「藻場」)で繁殖した小型イソギンチャクを駆除するために展示を中断し、水槽内の石はすべて捨て、淡水張りとした。
- 6月24日 ゴマモンガラ(全長49.6cm・体長41.6cm・湿重2.6kg、408号水槽)がクロハギ・ヒラニザなど他魚に噛み傷を負わせる行動が目立ってきたため、予備水槽へ隔離した。
- 6月25日 カゴカキダイ幼魚25尾(全長5-7cm)を岡本昭生氏より購入し、水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除者として第2水槽棟の13個の水槽へ分配収容した。それまで一年間役割を果たして成長したカゴカキダイ24尾(全長12-14cm)については、それらの水槽から取り出し、410-2・3号水槽・屋外水槽・第4水槽棟予備水槽へ収容した。
- 6月27日 袋湾(白浜町)で潜水(素潜り)し、402号水槽展示用としてノコギリモク13個体(高さ20-40cm)・ビャクシンツタ7個体・ガラガラ2個体を採集した。
- 7月29日 オニヒトデ1個体(径約25cm)の提供を鈴木 明氏(魚政商店、白浜町)より受けた。白浜町権現崎で採捕したもの。
- 8月26日 イシダイ(体長24cm、413号水槽)がヒラスズギの各鰭の先端部分をかじり取るため、第4水槽棟予備水槽へ移した。
- 8月27日 タコクラゲ1個体(傘径10cm)を袋湾から採集し、202号水槽のクラゲ用吊り水槽へ展示した。その後、袋湾では9月1日に小型個体の出現が多数見られ、9月3日

- に10個体(傘径2-5cm)を採集し、展示した。
- 8月29日-11月 1日 ギングメアジ・クロダイ・オトメベラなど26種90尾の幼魚(白浜町安久川・袋港で釣獲)の提供を、荒賀忠一氏(白浜町)より8回に及んで受けた。
- 8月30日 アミメノコギリガザミ1個体(雄、甲幅19.9cm・湿重2050g、和歌山県由良湾産)の提供を中村和彦氏(由良町)より受け、213号水槽へ展示した。
- 9月 1日 コブヒトデモドキ1個体(体長18cm)を大和茂之助手が塔島付近の水深3mより採捕し、215号水槽へ展示した。
- 9月 9日 208号水槽の底石の間に自然繁殖したニホンウミケムシを駆除するために、淡水を張った。展示中のマダコがニホンウミケムシの棘に刺されるせいか、落ち着きを無くしている様子だったので、このマダコが死亡したのを機会に展示を中断し、駆除した。
- 9月22日 チゴガニ50個体・ヤマトオサガニ26個体・トビハゼ3尾を内ノ浦干潟(田辺市)で採集し、402号水槽へ追加展示した。
- 9月30日 ノコギリモク5個体(全長40-60cm)を袋湾より採集し、402号水槽へ展示した。
- 10月 3日-11月20日 222号水槽(周年約15℃に冷却、普段はケアシガニ・コシマガニ・ウチワエビ・リュウマエビなどを展示)の展示動物がケアシガニ1個体となったため、予備水槽からタカアシガニ雌1個体を収容した(隣の223号水槽には、すでにタカアシガニ雄1個体を展示中)。
- 10月 8日 408号水槽で成長したフエダイ類を412・413号水槽へ移した。各個体の全長は、ゴマフエダイ64.8cm・バラフエダイ57.2cm・49.8cm・ナミフエダイ57.0cm・イッテンフエダイ43.2cm。どれも全長10cm内外の当歳魚(0+)を白浜町近辺の内湾や川口で採集して育てたものである。
- 10月 9日 ヒノマルテンス1個体(全長18cm)を岡本昭生氏より購入し、303号水槽に展示したが、翌日に死亡し、液浸標本にした。
- 10月16日 アジアコショウダイ1個体(全長22cm)を丸山恵三氏(南部漁協)より購入し、303号水槽へ展示した。
- 10月20日 幼魚育成用生簀として、網生簀(幅3.8m×奥行き2m×高さ2.5m、中央の仕切りで2区画、1.5cm目、かつて野外で研究用生簀として使用したもの)を101号水槽内に設置した。ヒラアジ類などを、幼魚から大型の魚に捕食されない大きさ(全長約40cm)になるまで育成する目的で使用する。22日には404号水槽からギングメアジ1尾・ロウニンアジ3尾・カスミアジ11尾(いずれも全長20-25cm)を、405号水槽からシマアジ13尾(全長約35cm)をこの生簀に移した。
- 10月24日 403号水槽(「岩礁 黒潮の豊かな生物」)の展示動物の入れ替えと同時に、底砂の洗浄など大掃除を行った。
- 10月30日 ヒイラギ120尾(全長5-6cm、幼魚)を内ノ浦港(田辺市)岸壁で餌でおびき寄せて手網で採集し、404号水槽へ展示した。
- 11月 4日-15日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類に認められたため、硫酸銅280gを3回に及んで投薬した。この間、軟骨魚類がいる406号水槽は、この循環系統から切り離し開放式とした。
- 11月13日 409号水槽のウツボ類用の隠れ家として、塩化ビニール製パイプ(径15cm・10cm・20cm、長さ75-80cm、三本づつ被覆銅線で縛ったものを計9セット)に交換した。これまではコンクリート製側溝(幅21cm・深さ15cm・長さ60cm、計10個)を積み重ねていたが、崩れやすいことと水槽大掃除の際に取り出すのに労力を要するという欠点があった。
- 11月14日 401号水槽(「干潟」、テラリウム)の冬季保温のため、水槽にビニールの蓋をした。例年、この蓋をすると共に、家庭温室用の温風器をセットして槽内の空気

を加温していたが、温風器が錆びて故障し、しかも製造中止により新品の入手が困難になったことから、温風器による加温を断念することにした。今後は、水槽底を流れる循環海水(冬季は約21℃)と日中の太陽光による加温のみで冬季を乗り切ることになるが、カニヤトビハゼなどの展示動物が不活発になり、巣穴や隠れ家からあまり出てこないことが懸念された。

- 11月20日 223号水槽(間口3.8m・奥行き1.3m・水深1.4m、水量6.4m³)にタカアシガニ雄1個体を予備水槽より追加収容して、雄2個体にした。ところが互いに干渉し合い、餌(アジ切身)をまったく食べなくなったため、28日に元にもどした。
- 12月15日 シロタスキベラ1個体(雌、全長約26cm)を玉置光生氏から購入し、303号水槽へ展示した。
- 12月16日 マメダコ1個体を209号水槽(「甲殻綱 蔓脚類」)で採捕し、208号水槽(「軟体動物 イカ目」)内に小ダコ用の吊り水槽をセットして展示した。6月13日に採集した、クロフジツボ付着の石に潜んでいて成長したものと思われる。
- 12月25日 202号水槽で最後のタコクラゲが死亡したため、クラゲ用吊り水槽を撤去した。本年のタコクラゲは9月3日から展示していた。
- 12月25日 303号水槽の魚類にビブリオ菌病の症状が認められたため、水槽を閉鎖内部循環とし、ヒーターとサーモスタットをセットして殺菌剤(エルバージュ)を投与した(28日まで)。

5. 生物観察メモ(水槽・野外)

- 2月 6日 チゴガニ(401号水槽)のウェイピング行動が、5個体で今春初めて見られた。その後、この行動を示す個体数は日増しに増加し、25日16:00には20個体で見られるようになった。
- 3月10日 クロハギ1個体(成熟雄、全長46.0cm・体長36.2cm・湿重2.4kg、408号水槽)が、体側左に2ヶ所(各8cm)、右に3ヶ所(2-6cm)の、ナイフで切られたような傷を負って死亡した。繁殖行動に関係すると思われる、雄個体同士の闘争がこの時期に観察されるため、尾柄部の可動棘によって傷つけられたものと推察される。
- 3月14日 昨夏、高水温のために白化したサンゴイソギンチャク8個体(403号水槽)は生存しているものの、まだ褐虫藻の増加による回復の兆しが見られない。
- 3月21日 カイウミヒドラ2群体が、シワホラダマシ2個体の貝殻上で完全に回復しているのが認められた(228-5号水槽、流水式)。昨夏以降、カイウミヒドラは確認できていなかった。
- 5月 5日 クマノミ雌雄(403号水槽)が、サンゴイソギンチャクのそばに産卵し、11日か12日に孵化した。
- 5月 6日 ベッコウカサガイの簡単な起き上がりテストを行ってみた。洗面器に海水を張り、2個体を裏返しにして置いたところ、3時間経過しても起き上がることができなかった。このことから、採集後、水槽に収容する際には、個々に岩の表面に引っ付けてやる必要があると思われる。
- 5月20日 スナクダヤドムシの生息を、島島の南浜(水深1m)で他の動物の潜水採集中に確認した。
- 5月24日 長期飼育中のヘダイ1個体(412号水槽、全長46.0cm・体長36.5cm)が死亡した。解剖所見では熟卵を持っていた。
- 5月27日 ハリサザエ1個体(殻高約5cm)を番所崎水深1mの砂礫底で採集した。いくつかの図鑑を総合すると本種の生息深度は20-300mである。
- 6月12日 エイラクブカ新生仔4個体(101号水槽)が水槽底で死亡しているのを発見した。

すべて雌で、大きさは①全長21.3cm・湿重29.7g、②21.3cm・27.9g、③20.9cm・24.8g、④18.6cm・20.3cm。

- 6月27日 南浜にアカウミガメの上陸足跡が2ヶ所あった。産卵に至ったかどうかは不明。
- 7月 1日 南浜でアカウミガメの産卵場所を1ヶ所確認した。
- 7月 7日 シチセンスズメダイ(雄：全長16cm・雌：全長17cm、410-2・3号水槽)の産卵行動が8時30分頃見られ、底砂より20cmほど上方の水槽壁(エポキシ塗装)に産卵した(卵塊の直径は約20cm)。孵化するまで雄がファニングや卵塊に近づく他魚を追い払うなどの行動が間近に見られた。その後、10月16日まで同じペアで、同じ壁面の約1㎡内で14回の産卵が認められた。産卵時刻は、目撃した10回のうち7回が午前中で、点灯直後の8時台が4回ともっとも多かったが、16時頃の産卵も2回見られた。孵化の様子は確認しなかったが、他のスズメダイの例から、日没直後に行われたものと思われる(消灯は17時であるが、水槽上方に明り取りがあるために日没までは暗くならない)。孵化に要した日数は5-8日で、水温の下降に伴い長くなった。
- 7月 8日 ニセクロナマコ1個体(403号水槽、計15個体収容)が、頭部を持ち上げ放精していた(13:30)。7月18日には、ガラス面を掃除直後、9個体の放卵放精が見られた(16:30)。
- 7月10日 411-1号水槽(「スズキ目」)で、ハナアイゴ1個体(全長約23cm)の存在を確認した。幼魚の時にアイゴと混入して入槽したものと思われる。
- 8月 2日 ハボウキガイ1個体(第3水槽棟予備水槽)が、カコボラ1個体に左右の殻の間から物を差し込まれ食べられてしまった。
- 10月 3日 タカアシガニ1個体(雌)をケアシガニ1個体のみ展示中の水槽(222号水槽)に収容したところ、22時30分頃、タカアシガニがケアシガニを捕食しているのを目撃した。
- 10月 6日 真鍋克次氏(白浜町網不知・漁師)によれば、モンツキイシガニが、本年は田辺湾でカニ刺網にまったくかからないとのこと。モンツキイシガニは1997年以来、夏季を中心にタイワンガザミに混じって漁獲され、水族館でも展示を続けてきた。
- 11月15日 夏季に見えなくなっていたカイウミヒドラ2群体が、シワホラダマシ2個体の貝殻上で生育しているのを確認した(228-5号水槽)。

6. その他

- 2月 6日 2002年12月末における水槽別動物集計の結果が出た。無脊椎動物284種2602点、脊椎動物(魚類)204種1751点を飼育中。
- 2月14日 田名瀬英朋助手が日本動物園水族館協会・第31回飼育技師資格認定試験(会場：アドベンチャーワールド)に試験官として立ち会った。
- 3月 5日 4月からの改組(大学院理学研究科からフィールド科学教育研究センター・海域ステーションへの移行)に伴って、ポスターとリーフレットの改定作業を行い、印刷業者に発注した。
- 3月31日 樫山嘉郎技官(おもに水族館の機械設備担当)が定年退官した。それに先立ち、日本動物園水族館協会から有功章を受賞した。
- 4月 1日 樫山嘉郎技官の退官に伴い、事務官・技官の勤務体制が4班から3班体制に変更になった。
- 4月21日 太田 満・山本泰司技官が近畿大学水産研究所白浜実験場(白浜町)を訪れ、ペレット餌料に関する説明を米島久司氏から受けた。

- 4月24日 太田 満・山本泰司技官が和歌山県水産増殖試験場(田辺市)を訪れ、ペレット餌料に関する説明を木村 創氏から受けた。
- 4月26日 観覧通路のワックス掛けが業者によって閉館後に行われた。
- 5月 1日 豊田泰浩氏(日本配合飼料(株))からペレット餌料に関する情報を得た。
- 7月28日-31日 関西電力が、冷却装置の夜間運転(3.機械・設備 7月27日-9月22日、8月5日-9月22日の項、参照)に関連して、305・403・409号水槽および各貯水槽で水温調査を実施した。その結果も併せて、8月19日に「エネルギー診断報告書」の説明があった。
- 8月 8日 台風10号の襲来により午後から閉館とした。南浜道路に大量の砂が打ち上がり、11日に除去作業を行った。
- 9月 2日 大久保貞男氏(K.Kネスター)と共に、各種省エネ照明の点灯試験を行った。